

北陸高等学校弓道部

ユニセフチャリティー弓道大会

高校生ボランティア・アワード2018

❁ユニセフチャリティー弓道大会とは❁

【活動概要】

マラソンやその他のスポーツでは、チャリティーを目的とした大会が開催されているが、弓道では聞いたことがない、弓道部員とともにチャリティー弓道大会を行いたい。その思いで始まった。

初めは本校の弓道場で平成13年に開催された。2回目の大会から大会名がユニセフチャリティー弓道大会となった。大会の運営は、北陸中学生、高校の現役部員、北陸高校弓道部OB会のボランティアで行われている。この大会の参加費は募金となり、ユニセフへと送られる。そして、ワクチンなどの支援物資となり、世界の子供たちを助ける事につながる。これがユニセフチャリティー弓道大会である。



❁ひろがる輪❁

【活動目的】

いつもの大会は学校ごとに出場するが、チャリティー弓道大会は自分の学校だけでなく他の学校、他県、年の違う人と自由に決めることができる。

中高大一般や学校、県を超えて人と人のつながりの輪がさらに大きくなる。

また、今どきの若者と呼ばれる高校生が大会運営を通じて世界の現状や平和の大切さ自分の役割、仕事を考えることができる

こうして、楽しく弓を引けることは、当たり前じゃないと感ずることができ、感謝の気持ちが大きくなる。



❁各役割の感想❁

【進行】

大会が滞りなく進行できるように中央から全体を見て、トランシーバーで指示を出すなどしていました。

トラブルが起きる前に気づいて対処するのが難しかったです、いい経験になりました。

【看的】

看的とは的に矢が中ったか外れたかを○×で表示する仕事なのですが、もし間違えてしまうと、結果を変えてしまうという責任のある役割だったので、ずっと気を張っていました。

【招集】

参加する人が多いので、招集の時間や現在試合中のチームをホワイトボードに書いたり、大きな声で選手を招集したりしていました。

福井県内だけでなく他県からも参加してくださるので、いろんな人と交流を深められました。

【受付】

出場者名をチェックしたり、募金を集めたりしていました。OBの方やいろんな人が笑顔で、募金してくださって、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

❁周りを見る力❁

【実施内容】

すべて中った人に贈る皆中賞を渡すのは中学生、入って間もない高校一年生には矢取、上級生には進行、看的、招集、記録、受付などの仕事が割り振られている。このように、大会運営の要所の仕事が必ず全員に当たる。

そのため、全員が周りを見て気を配らなければ、大会を運営することができない。日頃の部活や、練習試合など年間を通してできるだけ大会運営のリハーサルをし、本番に最高のおもてなしをする。そうしてまた来たいと思ってもらえるよう活動し、去年より多く募金をしていただくことに努めている。

❁実績・今後の予定❁

第1回大会は参加選手137名、募金総額67,330円だったが、今では参加選手約360名、募金総額約170,000円と大きく成長し今日に至っている。この大会で集まった募金は、やがて約8800回分のワクチンになり、世界の子供たちに届けられる。

成長したのは大会規模だけではない。この大会の運営を通して、部活動として一回りも二回りも成長できたことを実感している。

大会役員として走り回った生徒たちがその視野を広げて進路を決定し、やがて子供を連れて帰ってきてくれるという流れもできつつある。

北陸高校のあと、チャリティー大会を実施した高校は、県外に4校存在している。これからまたこの大会が広がっていくよう私たちはこれからもこの活動を続けていきたいと思っている。



北陸高等学校
弓道部

1961年創立。部員数約100名、各コースに在籍している。2001年、日本で初めてのチャリティー弓道大会を主催した。

